

もの言う牧師のエッセー 第364話

「大坂なおみ「私は私」」

女子テニスの大坂なおみが9月8日、全米オープンのシングルス決勝で元世界ランキング1位のセリーナ・ウィリアムズを破って初制覇し、四大大会シングルスで日本テニス史上初の快挙を成し遂げた。

他方ウィリアムズは、180キロを超えるサーブを返され、強打で左右に走らせても大坂を崩せず、ポイントを取れない焦りから次第にミスを重ね、ついに第5ゲームでラケットをコートにたたき付けて破壊、警告を受けポイントを失った後、逆転されるに及んで主審に近づき「嘘つき！謝れ！」などと怒りを爆発させ、この暴言でペナルティーをとられ戦わずして1ゲームを失い、勝機を完全に逸した。

「彼女は本当に堅実だった」とウィリアムズも強さを認め、「力、スピード、心の混乱をシャットダウンする能力が相手に打ち勝った」とニューヨークタイムズに称賛された大坂と対照的に、ウィリアムズの追い詰められた姿が際立った試合だった。

いっぽう、出産後初の全米制覇を期待し“ウィリアムズ一色”となった観客から、大坂に試合中から大ブーイングが浴びせられ、表彰式が始まってもブーイングは止まなかったが、彼女は突然「みんながセリーナを応援していたことは知っています。こんな結果になってごめんなさい」と観客に語りかけ、そしてウィリアムズにサッと一礼し「あなたとプレーすることが出来て感謝しています。」闘志むき出しの試合中の姿と打って変わった控えめな大坂の態度に、それまで騒然としていた会場は静まりかえり、日本のみならず世界中に感動を与えた。

子供の頃から決勝でウィリアムズと戦うことをだけを考え練習を積んできた彼女。「会場に入る間の時点でアウェーは分かっていた。それよりも彼女と戦うことは名誉だと言いつけていた。」日頃はアイスクリームを食べたりビデオゲームしたりする普通の20歳のひょうきんな女の子だが、日・米・ハイチ、3つの背景を持つことについては、「アイデンティティーを深く考えることはない。私は私としか思っていない。育てられた通りになっている」と。聖書には

「私は主に尊ばれ、私の神は私の力となられた。」

イザヤ書49章5節、

とあるが、我々一人ひとりがオリジナリティを持ち、神はそんな我々一人ひとり愛してくれている。それぞれに夢があり、やるべきことがあり、出来ることがある。日頃から研鑽を積み、周りの重圧や敵意に負けず、何かのせいにならせず、かえって感謝と尊敬の念を持って歩いて行く。本来その力は、神によってすでに我々一人ひとりに備えられている。

2018-11-29

